

## 2 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要

#### ○2009/10年度の大豆需給（予測）のポイント

大豆の供給面では、米国においては作付面積が過去最高を記録し、単収も前年度は低下したが、今年度は過去最高が見込まれる。また南米では天候が良好で単収が回復する見込みであり、世界の生産量は増加が見込まれている。

需要面では、EU等で減少するものの、引き続き中国等で搾油用需要を中心に拡大することから、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから、期末在庫率は前年度を上回ると見込まれる。

#### 【生産量】

生産量は、中国等で減少するものの、世界第1位の生産・輸出国である米国や南米のアルゼンチン、ブラジル、パラグアイ等で増加することから、世界全体では前年度より42.5百万トン増加（20.2%）し、253.4百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.1百万トン上方修正されており、国別にはブラジル、米国で上方修正された。

#### 【消費量】

消費量は、搾油用需要を中心にEUで減少するものの、中国、アルゼンチン等で増加が見込まれることから、世界全体では前年度より14.1百万トン増加（6.4%）し、234.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.0百万トン上方修正されており、国別には米国、EU、中国、ブラジルで上方修正され、インドで下方修正された。

#### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より3.9百万トン増加（5.1%）し、80.6百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では前年度干ばつで減産したアルゼンチン、パラグアイの輸出量や、米国の中国向けの輸出量の増加が見込まれ、需要が集中していたブラジルで輸出量の減少が見込まれる。一方、輸入国では、EUの輸入量が減少するものの、アジア諸国を中心に輸入量が増加し、中国は旺盛な需要が続くと見込まれる。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.0百万トン上方修正されており、国別には、輸出国では米国、ブラジルで上方修正、アルゼンチンで下方修正され、輸入国では中国、EUで上方修正され、メキシコでわずかに下方修正された。

#### 【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから世界全体では前年度より16.9百万トン増加（39.5%）し、59.8百万トンとなり、期末在庫率は25.5%（6.0ポイント増）と前年度を上回る見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.7百万トン上方修正されており、国別にはブラジル、中国等で上方修正され、米国で下方修正された。

表－1 世界の大豆需給

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>221.1</b>	<b>210.9</b>	<b>253.4</b>	<b>3.1</b>	<b>20.2</b>
米国	72.9	80.7	91.5	1.1	13.3
ブラジル	61.0	57.0	65.0	2.0	14.0
アルゼンチン	46.2	32.0	53.0	-	65.6
中国	14.0	15.5	14.5	-	▲ 6.5
インド	9.5	9.1	8.8	-	▲ 3.3
パラグアイ	6.9	3.9	6.7	-	71.8
カナダ	2.7	3.3	3.5	-	4.9
<b>消費量</b>	<b>229.7</b>	<b>220.7</b>	<b>234.8</b>	<b>1.0</b>	<b>6.4</b>
うち搾油用	201.9	192.9	203.9	0.9	5.7
中国	49.8	51.4	55.3	0.3	7.5
米国	51.6	48.0	51.4	0.5	7.0
アルゼンチン	36.2	33.3	36.6	-	10.1
ブラジル	35.1	34.3	35.1	0.3	2.2
EU-27	16.1	14.1	13.9	0.4	▲ 1.5
インド	9.4	8.8	8.8	▲ 0.3	▲ 0.3
日本	4.2	3.8	4.1	-	8.2
<b>貿易量</b>	<b>79.5</b>	<b>76.7</b>	<b>80.6</b>	<b>1.0</b>	<b>5.1</b>
(輸出)					
米国	31.5	34.9	37.4	1.0	7.1
ブラジル	25.4	30.0	24.0	0.3	▲ 20.0
アルゼンチン	13.8	5.6	9.9	▲ 0.3	76.3
パラグアイ	5.4	2.4	4.9	-	104.2
カナダ	1.8	2.0	2.0	-	▲ 0.8
(輸入)					
中国	37.8	41.1	42.0	1.0	2.2
EU-27	15.1	13.3	13.0	0.3	▲ 2.3
日本	4.0	3.4	4.0	-	16.3
メキシコ	3.6	3.3	3.5	▲ 0.0	5.2
台湾	2.1	2.1	2.3	-	6.1
タイ	1.8	1.5	1.7	-	12.9
インドネシア	1.1	1.2	1.6	-	33.3
<b>期末在庫量</b>	<b>53.0</b>	<b>42.9</b>	<b>59.8</b>	<b>2.7</b>	<b>39.5</b>
アルゼンチン	21.8	16.2	22.9	0.3	41.2
ブラジル	18.9	11.7	17.8	1.5	52.3
中国	4.2	9.0	9.7	0.7	7.7
米国	5.6	3.8	6.7	▲ 0.3	77.2
EU-27	0.8	0.7	0.8	0.2	16.6
<b>期末在庫率</b>	<b>23.1%</b>	<b>19.4%</b>	<b>25.5%</b>	<b>1.1</b>	<b>6.0</b>

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」

## (2) 大豆の主要生産・輸出国等の需給状況

### ア 米国

#### 【需給状況】

米国の生産量は、需給のひっ迫見込みから農家の作付け意欲が増加し、作付面積が史上最高を記録した。また、天候が良好に推移したことから、単収は史上最高を記録した。前年度より10.7百万トン増加（13.3%）し、史上最高の91.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、畜産向けの需要の回復や輸出向けの大豆粕需要の増加や、搾油用需要の増加が見込まれることから、前年度より3.4百万トン増加（7.0%）し、51.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量増による供給量の増加や、中国向けの輸出需要の増加が見込まれることから、前年度より2.5百万トン増加（7.1%）し、37.4百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、2.9百万トン増加（77.4%）し、6.7百万トンとなり、期末在庫率は7.5%（3.0ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積が下方修正されたものの、単収が上方修正されたことから生産量で1.1百万トン、消費量で0.5百万トン、中国の需要増により輸出量で1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量で0.3百万トン下方修正された。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

大豆の主要18州の作付けは、雨がちな天候の影響でコーンベルト東側の主産地であるイリノイ州等で作付けが遅れたものの、7月初めにほぼ終了した。

その後は天候にも恵まれ、生育の遅れは取り戻しつつあったが、10月に入り低温で雨がちな天候により収穫作業に遅れが生じた。11月29日現在の収穫率は96%で、前年度や過去5年の平均に比べ2ポイント下回っているものの、12月で収穫がほぼ終了したと見込まれる。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース73.5%）  
世界の生産量シェア 1位（2009/10年度 36.1%）  
輸出量シェア 1位（2009/10年度 46.4%）

表－2 米国の大豆需給（市場年度：9月～翌年8月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	72.9	80.8	91.5	1.1	13.3
消費量	51.6	48.0	51.4	0.5	7.0
うち搾油用	49.1	45.2	46.5	0.4	2.9
輸出量	31.5	34.9	37.4	1.0	7.1
輸入量	0.3	0.4	0.2	-	▲ 38.9
期末在庫量	5.6	3.8	6.7	▲ 0.3	77.4
期末在庫率	6.7%	4.5%	7.5%	▲ 0.4	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	25.96	30.22	30.92	▲ 0.09	2.3
単収(t/ha)	2.81	2.67	2.96	0.05	10.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

#### ○ 米国大豆の生育進捗状況（11月29日現在）

〔生育進捗状況(2009/10年度大豆)〕

収穫率 96%（平年差：▲2p、前年差：▲2p）

## イ ブラジル

### 【需給状況】

ブラジルの生産量は、世界的な大豆需要の増加から、依然国際価格が高水準であることや、肥料価格下落の影響、とうもろこし等からの作付け転換により収穫面積の増加が見込まれることから、前年度より8.0百万トン増加(14.0%)し、史上最高の65.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用の増加に伴い前年度より0.8百万トン増加(2.2%)し、35.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、搾油の増加、アルゼンチンの生産量の回復により集中していたブラジルへの需要が減少し、前年度より6.0百万トン減少(▲20.0%)し、24.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、6.1百万トン増加(52.3%)し、17.8百万トンとなり、期末在庫率も30.1%(11.9ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、作付期の良好な天候やブラジル政府の最新の公的統計により生産量で2.0百万トン、消費量で0.3百万トン、輸入国の需要増により輸出量で0.3百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量で1.5百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大豆の作付けは、8月末から9月初めにかけて雨が降り、早期作付けに適した状態で、平年より早く作付けが開始された。12月中には主産地の中西部を中心に作付けが概ね終了した。

しかし、降雨過多である南部のリオグランデドスル州では残りの作付け作業が停滞している。また、中西部のマトグロッソ州北部では早植えの大豆が収穫中である。今後の天候に注視が必要。

## ウ カナダ

### 【需給状況】

カナダの生産量は、前年度に上昇した単収が低下するものの、主産地である東部のオンタリオ州とケベック州で収穫面積が増加する見込みであることから、前年度より0.2百万トン増加(4.9%)し、3.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用を中心に増加することから、前年度より0.1百万トン増加(8.9%)し、1.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並みの2.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度並みの0.2百万トンとなり、期末在庫率も5.7%(1.0ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

カナダの大豆は、一部の地域では低温が続き、生育に遅れが生じたことで収穫の開始が遅れたものの、11月中に概ね収穫が終了した。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2008年数量ベース 15.3%)  
世界の生産量シェア 2位 (2009/10年度 25.7%)  
輸出量シェア 2位 (2009/10年度 29.8%)

表-3 ブラジルの大豆需給 (市場年度: 10月~翌年9月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Conab)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	61.0	57.0	65.0 (64.6)	2.0	14.0
消費量	35.1	34.3	35.1 (37.1)	0.3	2.2
うち搾油用	32.1	31.4	32.1 ...	0.3	2.2
輸出量	25.4	30.0	24.0 (25.9)	0.3	▲ 20.0
輸入量	0.2	0.1	0.2 (0.1)	-	200.0
期末在庫量	18.9	11.7	17.8 (3.7)	1.5	52.3
期末在庫率	31.3%	18.2%	30.1% (5.8%)	2.3	11.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	21.30	21.70	23.10 (23.05)	0.40	6.5
単収(t/ha)	2.86	2.63	2.81 (2.80)	0.03	6.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
Conab (December 8, 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2008年数量ベース 8.8%)  
世界の生産量シェア 7位 (2009/10年度 1.4%)  
輸出量シェア 5位 (2009/10年度 2.5%)

表-4 カナダの大豆需給 (市場年度: 8月~翌年7月)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2.7	3.3	3.5 (3.5)	-	4.9
消費量	1.8	1.7	1.8 (1.7)	-	8.9
うち搾油用	1.4	1.3	1.4 ...	-	6.9
輸出量	1.8	2.0	2.0 (2.0)	-	▲ 0.8
輸入量	0.3	0.4	0.4 (0.3)	-	▲ 2.6
期末在庫量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	26.4
期末在庫率	4.2%	4.7%	5.7% (8.1%)	-	1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.17	1.20	1.38 (1.38)	-	15.0
単収(t/ha)	2.30	2.79	2.54 (2.54)	-	▲ 9.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
AAFC 「Grains and Oilseeds (December 15, 2009)」

## エ 中国

### 【需給状況】

中国の生産量は、主産地の一部で生育期の低温等により単収が減少し、収穫面積がとうもろこしにシフトして減少すること等から、前年度より1.0百万トン減少（▲6.5%）し、14.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要の増加等から前年度より3.9百万トン増加（7.5%）し、55.3百万トンとなる見込みである。

輸入量は、国家備蓄政策による影響で国内大豆に比べ輸入大豆の割安感から前年度は増加したが、今年度も需要が旺盛であることから、0.9百万トン増加（2.2%）し、42.0百万トンとなる見込みである。なお、中国の輸入量は世界の約5割を占めている。

一方、輸出量は、前年度より0.1百万トン増加（25.0%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.7百万トン増加（7.7%）し、9.7百万トンとなるものの、期末在庫率は17.4%（0.0ポイント減）とやや低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量で0.3百万トン、米国からの輸出成約増により輸入量が1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.7百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

中国の平年生産量の約40%を占める黒龍江省では、生育期の5月に乾燥天候で同省の45%以上が乾燥状態となり、さらに6～7月の低温等により被害があったことから、単収の低下が予想される。9月から収穫が始まり、10月中に収穫が終了した。

### 【貿易情報等】

2007年12月に増値税の輸出還付を取消し、2008年1月から輸出税を課していたが、残りの黄大豆と種子用大豆の輸出税についても2009年7月1日に撤廃された。

また、中国政府は2009年の作付けを推進させるため、725万トンの備蓄をしていた。9月頃には新穀の収穫が始まることから、在庫スペースの確保のため、7月下旬から11月25日までに約840万トンの競売（再競売あり）を行ったが、最低入札価格が現物市場の価格よりも上回るため、約14万トンの落札に留まっている。12月に入ってから大豆の競売は行われていない。

なお、2009年産大豆についても、最低買入価格を定め、備蓄向けの買入を行うことが発表されている。

一方、中国は2010年1月1日から大豆等を輸入する際、同国商務省の輸入許可証が必要となった。

我が国の輸入先国シェア4位（2008年数量ベース 2.3%）  
世界の生産量シェア 4位（2009/10年度 5.7%）  
輸入量シェア 1位（2009/10年度 52.1%）

表－5 中国の大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	15.5	14.5 (14.5)	-	▲ 6.5
消費量	49.8	51.4	55.3 (…)	0.3	7.5
うち搾油用	39.5	41.0	44.8 (44.6)	0.3	9.1
輸 出 量	0.5	0.4	0.5 (…)	-	25.0
輸 入 量	37.8	41.1	42.0 (43.4)	1.0	2.2
期末在庫量	4.3	9.0	9.7 (…)	0.7	7.7
期末在庫率	8.5%	17.4%	17.4% (…)	1.2	▲ 0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.75	9.13	8.80 (8.90)	-	▲ 3.6
単収(t/ha)	1.60	1.70	1.65 (1.63)	-	▲ 2.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (January 22, 2010)」

## オ アルゼンチン

### 【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、前年度は干ばつの影響で大幅な減少となったが、小麦等から大豆への面積のシフトで前年度より21.0百万トン増加（65.6%）し、53.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要を中心に増加することから、前年度より3.3百万トン増加（10.1%）し、36.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復に伴い、4.3百万トン増加（76.2%）し、9.9百万トンとなる見込みである。また、輸入量は、1.1百万トン減少（▲88.4%）し、0.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より6.7百万トン増加（41.2%）し、22.9百万トンとなり、期末在庫率は49.2%（7.5ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の輸出量で0.2百万トン下方修正され、2009/10年度の期首在庫量で0.2百万トン上方修正された。また、輸出量で0.3百万トン、輸入量で0.2百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量で0.3百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の大豆の作付けは、10月末に始まった。一部産地での雨不足により作付けが遅れたものの、その後の降雨により土壌水分が補給された。

1月初旬にはほぼ作付けが終了したと見込まれる。

なお、作付け終盤には主要産地がエルニーニョによる降雨により土壌水分過多が懸念されたものの、その後は生育に適した天候で推移している。

### 【貿易情報】

大豆輸出税を中心とした政府の農業政策に対し、2009年3月に大豆の輸出税の現行35%からの引き下げを求め、穀物の売却を拒否するストライキを行った。

なお、アルゼンチンの上院は8月20日に、大統領が穀物輸出税を設定する権限を1年間延長することを承認したことから、8月末に再度ストライキを行っており、依然として政府と農家で対立が続いている。

（世界の生産量シェア 3位（2009/10年度 20.9%）  
輸出量シェア 3位（2009/10年度 12.2%））

表-6 アルゼンチンの大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	46.2	32.0	53.0 (51.0)	-	65.6
消 費 量	36.2	33.3	36.6 (…)	-	10.1
うち搾油用	34.6	31.9	35.0 (33.2)	-	9.7
輸 出 量	13.8	5.6	9.9 (8.0)	▲ 0.3	76.2
輸 入 量	3.0	1.3	0.2 (…)	▲ 0.2	▲ 88.4
期末在庫量	21.8	16.2	22.9 (27.7)	0.3	41.2
期末在庫率	43.5%	41.7%	49.2% (…)	1.0	7.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.37	16.00	18.80 (18.75)	-	17.5
単収(t/ha)	2.82	2.00	2.82 (2.72)	-	41.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (January 22, 2010)」